**第３回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会記録《要旨》**

○日時　　平成２６年８月２６日（火）　１０：００～正午

○場所　　メルパルク大阪　４階　ラマージュ

（大阪市淀川区宮原４－２－１）

○議題　（１）部会からの報告について

（２）「太陽の塔」内部公開について

（３）将来ビジョンについて

○出席委員等　　更家会長、石川委員、篠﨑委員、中谷委員、小泉専門委員

○事務局　　府民文化部理事　ほか

**【開会】**

＜審議会規則第５条第２項の規定により、会議の成立を報告＞

＜府民文化部理事あいさつ＞

**【議事】**

＜資料３　第２回魅力創出部会議事録概要抜粋＞

＜資料４　第２回緑整備部会議事録概要抜粋＞

　以上について、事務局から説明。

（了承）

**更家会長**

続いて、事務局から「資料５　太陽の塔内覧について」の説明をお願いする。

～　事務局説明　～

**石川委員**

「太陽の塔」内部展示内容について、私はこれで結構だと思いますが、資料を見ると、　　人が通る場所は、２メートルもないのではないか。とても危惧している。たくさんの人が　　通る部分にプラス２４０と書かれているが、この意味が分からない。

これが最終形というのであれば、これまで議論を重ねた事務室、その土台のスペースが　何なのか、トイレに入った時の動線と、出ていくときの動線はどうなるのか。

「太陽の塔」の内部はこうなりますという最終的な図面が分からないので、説明していただきたい。

**事務局**

事務室とトイレの間にスペースがあるが、ここは天井がなく、ガラス越しに下から「太陽の塔」が見上げられる状態。地上から地下１階までは、オープンスペースとする。この部分　　には室外機を設置する予定だが、機械を隠すようにしたいと考えている。

動線については、国土交通省の全館避難安全検証法により、塔内に入れる人数が制限され、最大入館者数は１時間あたり１７０名となる。また、当初は予約制を導入することを考えており、エントランスゾーンから１０分ごとに２０名ずつ入館する形となる予定。「地底の　　太陽」の部分の通路幅は、約２．５メートルを確保しているが、１回当たりの入館者数は　　２０名なので、横に２列になっても十分通行可能。車椅子の方も通行可能であると　　　　考えている。

**石川委員**

内部展示空間の見せ方や動線については、もう少し慎重に考えていただきたい。資料では通路部分がプラス２４０でその隣がプラス３６０と表示されている。これでは、下がって　いることになり、歩いている人は展示物が鑑賞できないのではないか。

**事務局**

プラス２４０というのは２４センチメートルのこと。「地底の太陽」が鎮座する下側の　　部分をカスケード（階段状に連続する滝という意味）の階段状とする仕掛けを検討している。図面上のプラス２４０やプラス３６０というのは、うねり的な展示を案として考えてみたということ。委員のご意見を踏まえ、詳細設計を行ってまいりたい。

**石川委員**

私が申し上げたいのは、カスケード状にするとしても、もともと塔内は狭いのだから　　しっかり設計すべきだということ。本日の配布資料は、まだまだ途中時点の図面。内容も　　よくわからない。きっちりした図面を示していただくことを希望する。

**更家会長**

資料に関する詳細については、事務局と協議いただくということで、よろしいでしょうか。

内部公開手法については、決を採らせていただきたい。賛成の方、挙手願います。

（出席委員、全員挙手）

ありがとうございます。それでは、本件については審議会として決定させていただくので、よろしくお願いする。

続いて、事務局から「資料６及び資料７　万博記念公園の活性化に向けた将来ビジョンに　　ついて」の説明をお願いする。

～　事務局説明　～

**石川委員**

緑整備部会では、目指すべき緑の姿として「人と自然」「文化」「交流」の３つをあげて、委員の皆さまに賛同いただいた。

本審議会における当初からの議論で、緑に包まれた文化公園にするという大きな流れが　ある。ところが、資料６に記載されている「サブテーマ」には「文化」が抜けている。文化の体験、文化の発信ということで「サブテーマ」に文化を入れてテーマを３つにすれば、　　部会で議論したことがしっかり伝わるのではないかと思う。大きな構成として、部会に　　おける議論で３本の柱を立てていたので、ぜひこの場でご検討いただきたい。

「今後の取組み」で、「人と自然の調和」の下に「緑の中で人々が憩い、活動し、感動　　　　する公園」という項目がぶら下がっているが、これは交流や創造と重複するので、この位置にあるのは適切ではないと思う。

「国内外から多くの人が訪れる公園」「文化を体験・創造し発信する公園」については、「文化」でくくれば今までの議論とマッチすると思う。

「人々の交流と創造」については、原案で結構かと思う。

**更家会長**

「サブテーマ」に、もうひとつ項目があればよいということなのか。

**石川委員**

例えば、「世界へ文化を発信する」はどうか。第２回緑整備部会の資料では「目指すべき『緑』の姿」として、「人と自然がふれあう森」「人と文化がふれあう森」「人と人がふれ　　　あう森」の３つを挙げている。

**事務局**

「人類の進歩と調和」に「自然との関わり」と「人との関わり」という２点を集約させていただいた。「文化の発信」については「人々の交流と創造」の中に入れさせていただいているが、これは明示した方がよろしいでしょうか。

**石川委員**

魅力創出部会では、世界目線で考えるということで、世界遺産登録を目指すなどといわれていた。しかし、資料に挙げられているスポーツ、ライフスタイル、子供、防災というものは、どこの公園にもあるもの。

万博公園では何が違うのかというと「太陽の塔」がある。最高水準の日本庭園もある。　　他の公園と差別化するメッセージが必要。

**小泉専門委員**

「文化」という言葉が体系図の一番上のレベルで出てこないのは、気になる。

万博公園のマップを見ると、民族学博物館や大阪日本民芸館など、公園中央部分にある　施設が「緑の中に何かがある」という形でしか置かれていないように見える。

シンボルゾーンから何を発信するのかということにも深くかかわる問題。文化と全体と　大きく見たときに、もう一つほしいのは「美」の概念。「美しい」という概念が見えない。交流、楽しさ、スポーツというものはあるが、「美しい」ものが抜け落ちている。シンボルゾーンのところには、もともと国際美術館があった。

　シンボルゾーンにある大阪日本民芸館は、現状、弱体化しているが、民族学博物館は世界の文化を見せている。民博を見ることで世界の中の日本文化がよく見えるというところに　大きな意味がある。

　シンボルゾーンを中心として何かコンセプトを作れないか。例えば、日本文化の体感、　　感動を生む日本庭園は、大変素晴らしい。和食やお茶に関する施設を誘致することも考え　られる。この国で生まれた一番美しいもの、素晴らしいもののエッセンスが感じられる。　　そういうものがこのゾーンにあればよいのではないか。

**更家会長**

表現について、目線が低く内向きになっている。従来から指摘されているが、世界へ　　　向けて発信するとか、世界レベルのものを持ち込むというような表現にした方がよいのではないか。

これは私の意見であるが、３つ目のサブテーマについて、日本の文化を世界に向けて発信するというレベルまで持っていく。作り変えるくらいの意気込みで書いた方がよい。また、「太陽の塔」については、「世界遺産を目指す」という言葉を入れていただきたい。

目標像としては、「人と自然の調和」「人々の交流と創造」「世界への文化と美の発信」の３つに分けてはどうか。

**小泉専門委員**

世界の人が来たいと思う公園にするには、どうすればよいのか。そのためには、地域の人のことを考えるのではなく、まず、世界をコンセプトにして考えるようにすると、地域の人も来るような公園になる。つまり、逆転の発想が必要ではないか。

**中谷委員**

「太陽の塔」には、過去、現在、未来というコンセプトがある。守るべきものは守って　　　美しくしていくという文化論、次世代に継承していかなければならないことはわかるが、　新しさがない。「大阪、やっぱりすごいな。やりよったな。東京より新しいものを生み出しよったな。」というものがない。ないのではなくて、ここから深堀りすればできることが　　たくさんある。

例えば、災害時の適切な対応。災害発生時には、万博公園はこのように活用できますよというようなもの。それも、万博公園しかないものを作ってみることはどうか。「世界遺産」という言葉がでてきたが、あれもこれもという必要はないと思う。何か新しいもの、ここにしかないもの、だからこそ世界から人が集まってくる、という構図で考えてみるのはどうか。

（この後、中谷委員退席）

**更家会長**

　サブテーマを３つにすることについて、事務局はいかがでしょうか。

**事務局**

　改めて「人と自然との調和」「人々の交流と創造」「世界への文化と美の発信」といった　　観点で整理させていただきたい。

**石川委員**

小泉先生から「美」ということばが出てきた。「これはいいな」と思った。今までの議論で出てこなかった。私は「美」を入れたいと思う。

**小泉専門委員**

発信するためには、創造しなければならない。まずは、創るという意欲が感じられるようなスローガンにしたい。

**更家会長**

　緑について、緑プラス、花卉園芸的なものをもっと整備をするということについて、　　　ご意見をうかがいたい。

**石川委員**

緑整備部会では、樹木を中心に議論してきて、大事な日本の園芸文化について十分な議論ができていない。小泉先生がおっしゃった、いわゆる「美」についても議論不足であると　　思っている。万博機構時代の運営を含めて、花卉園芸について、どのような位置づけになっているのか。

**事務局**

万博機構時代から来園者に親しんでいただくために、園芸は非常に大事な位置づけとしていた。

**更家会長**

シンボルゾーンのところでは、バラなど魅力のある花が育てられている。春の桜祭りには２０万人の来場者があるとお聞きしている。花によっては、来園者増加が見込まれる。　　　そういったことを目指せばどうか。

**石川委員**

緑整備部会で議論してまいりたい。埼玉県の大宮には盆栽村があり人気がある。盆栽は　英語にもなっている。園芸文化は重要なものと考える。

**小泉専門委員**

園芸文化も大変結構。万博公園は日本を意識してよいと思う。ナショナリズムでよい。

日本には花の咲く木がたくさんあるが、万博公園には花卉が少ないと堺屋先生からお聞きした。クラウドファンディングを活用して花卉を充実させることはどうか。少しずつお金を出しあってもらって、自分の名前をつけた木を植えていくという形。これは、安藤忠雄さんが桜でやられたことと同じようなこと。

例えば、親が自分の子供の名前をつけた木を植える。そこに名前があるとなれば、いつか見に行きたくなるはず。多額の寄附をする人もいるだろう。そのような形でお金を集めると、花卉整備に多額の予算は不要になるのではないか。行政として場所だけ提供すればよい。　そのような形で発展させることは可能ではないか。

**更家会長**

長居公園でもロータリークラブにおいてこのような寄附が行われているとお聞きして　いる。整備方針が明確になれば、いろいろな手法が考えられると思う。

**篠﨑委員**

私は「世界への文化と美の発信」に大賛成。私たちが忘れてしまっている日本の伝統文化には、花に関することが結構多い。万博公園においても取り組まれているが、ハスの葉で　　お酒を飲む。そういうことをていねいに掘り起こしながら発信していく。そうすると、　　　小泉先生がおっしゃった、まず世界にアピールするということから考えよう。世界に　　　アピールする資源とは何だろう。というところからもう一度整理をして、それを重点的に　取り組んでいくという発想もあると思う。でも、すでに取り組んでいるものがほとんど。　　既存のものにプラスしていく、磨いていく、あるいは味付けしていくことだと思う。

しかし、それだけではないものがある。それは、「事業者の誘致」「運営手法」「広報」。　　　「海外の人にたくさん来てもらうためにショッピングセンターがあればよい」「新しいショッピングセンターだったらよいのだ」という発想でいくのか。そうではなく、世界に発信　　する美しい公園の中にあるショッピングセンターであり、エンターテイメント施設である点を活かして行くべき。そうであれば、「世界への文化と美の発信」の延長線上の環境演出　　　コードと運営コードが必要ではないか。

**更家会長**

今のご提案を「資料６」の概要版ではどのように反映すればよいか。

**篠﨑委員**

公園の北側と南側では整備方針が異なるということにならないようにすべき。

**更家会長**

「運営手法」の部分に「不動産の有効活用による安定収入の確保」「魅力ある公園づくりによる来訪者の増加」「クラウドファンディング等による参加型公園づくり」の３つを入れていただいてもよいのではないか。

また、「海外に向けた広報」とあるが、「国内外」とした方がよいのではないか。「国内外に向けた広報の強化」。それと「子どもの遊び、健康づくりなど多様なプログラムを提供」の部分であるが、「高齢者の憩い」といったものを付け加えればどうか。「子ども」だけだと、多様なライフスタイルという言葉との整合性に欠けるのではないかと思う。

「園芸」について、資料６概要版の「今後の取組例」に入れていただけないか。

**事務局**

将来ビジョンには、２４ページに「花の見所の修景をより高める」を入れているので、　　概要版でいうと「緑の中で人々が憩い、活動し、感動する公園」の中に具体的な…。

**更家会長**

さらっと書いてしまうと、どうしても桜だけのイメージとなってしまう。「花」という　　言葉を「花卉園芸」や「日本園芸文化」など、詳細に書く方が誤解が少ないのではないか。

先ほど、盆栽の話が出たが、フラワーアレンジメントや見せ方、庭園づくりなどは…。

**石川委員**

将来ビジョンでは、どこに書かれているのか。

**更家会長**

２４ページの「花の見所の修景をより高める」の部分になる。

**事務局**

将来ビジョン本文の中でも、盆栽や花など、もう少し表現をさせていただく。

**更家会長**

「園芸文化」という表現を用いるのか。

**事務局**

そのようにさせていただきたい。

**石川委員**

日本というものにこだわると、お茶だけではなく、生け花などもある。お茶も素晴らしい文化。花卉園芸にお茶や茶庭の花などの文化と絡めてみればどうか。

**事務局**

花の修景性だけではなく、花にかかわる文化面も充実させていくという理解でよろしいでしょうか。

**更家会長**

両方ということ。

**石川委員**

「世界への文化と美の発信」は、日本庭園や太陽の塔だけでなく、花卉園芸も含めた方がよい。文化としてそういうものを入れていく。将来ビジョンには、コスモスやポピーが非常に安易に出てきている。花き園芸文化を万博公園の中でどのように展開していくかについては、緑整備部会でしっかり検討してまいりたい。

**事務局**

将来ビジョンには、２４ページに茶道、華道、書道、舞、着付けなどを「日本文化、上方文化の体験・鑑賞プログラムを提供する」として挙げさせていただいているが、「緑の中で人々が憩い、活動し、感動する公園」の中に入れればどうか。

日本庭園という項目に入っているが、日本庭園に限定せず、公園全体としての発信という理解でよろしいでしょうか。

**石川委員**

そのとおり。日本庭園に閉じ込めないで。沿道の植栽に関する記載がある。そういう　　　ところにしっかり日本の花卉園芸文化をきちんと展開していくようにしてほしい。必ずしも日本庭園に閉じ込める必要はない。

**更家会長**

「民芸館のさらなる活用」という表現について、「民芸館の再整備と高度活用」にする　　のは言い過ぎだろうか。これは戦略である。民博と民芸館を日本文化の、世界文化の柱と　　して活用していこうという、小泉先生からのご意見もいただいているので、しっかりと言葉として書きたい。

**事務局**

では、「日本民芸館の再整備と高度活用」ということでいかがでしょうか。

**小泉専門委員**

これで結構です。シンボルゾーンで何を作って何を発信するかが重要。その部分はブラ　ンクにしておいて、あとで考えようという位置づけになっていると思うが、それを考える際には非常に重要な点になると思う。

**更家会長**

「太陽の塔」を中心とするシンボルゾーンがあって、左側に民博、右側に民芸館、奥に　　日本庭園と、その間にプロムナードの整備と緑との連携など、そういう形の整備イメージを作っていって、かつ、外周部分で安定的な収入をもたらして、収益をどんどん増やしながら、公園の中心部分の文化、緑のエリアに投資をしてレベルアップしていくと。これが公園全域の循環となり、訪問者も増え、発信力も高まっていくという戦略で行きたい。

**小泉専門委員**

海外から日本に来られる方は、日本だから来る、日本にしかないものを求めて来ると思う。「日本」というものを万博公園では非常に強く意識すればよい。

ただ、そのときに、日本の伝統的な文化だけではなく、新しい、この日本という国の中で生まれつつあるもの、それが見られるようなものにしたい。「美」で言えば、若い人の美術でもよい、そういうものも含めて視野に収められるような、とにかく日本で生まれた、また生まれつつある一番よいものがここに集まっているようにしたい。食であっても、園芸で　あっても、あらゆる面で一番よいものがここに来ればみんなある、というようにしなければ　　ならない。

**更家会長**

もう一度整理させていただく。サブテーマは「人と自然の調和」「世界への文化と美の　　発信」「人々の交流と創造」の３つとし、その下の「目標像」は、事務局で項目の整理を　　　　していただきたい。

**事務局**

「自然との調和」部分はそのままで、「世界への文化と美の発信」の部分は「国内外から多くの人が訪れる公園」「文化を体験・創造し発信する公園」がぶら下がることとなる。　　　そうすると、「健康づくりを支援する公園」「多様なライフスタイルを実践できる公園」　　「全ての人が安心して快適に利用できる公園」という項目が残ってくる。主に、ライフ　　　スタイルの内容となってくるので、ライフスタイル、暮らしや生活というキーワードに　　なってくるのではないかと思う。

したがって、「新たな生活への創造」や「新しい生活の創造」が３つ目の目標像として　　　ふさわしいのではないかと考える。

**石川委員**

「人々の交流と創造」は、日本国内や近隣だけではなく、世界中の人々が万博公園に来て交流をして創造するという意味で、とてもよい言葉だと思う。それが「新たな生活への創造」となると、非常にローカルな印象となってしまう。少し懸念する。

**小泉専門委員**

　おっしゃるとおり。

**石川委員**

「人々の交流と創造」のままでよいと思う。「人と自然の調和」にぶら下がっている　　　「地球環境保全に貢献する公園」については、「地球環境保全・再生に貢献する公園」と　　　していただきたい。

万博公園の最大の意味は、わずか50年で何もないところから立派な森を作ったという　ところ。それを強調しなければならない。前からあったわけではなく、何もないところから知恵を出して、整備をして立派な森になった公園。世界中見回しても50年でこれだけ素晴らしい森を造ったところはない。私は、一昨日までベトナムにいたが、インドシナ半島では大規模な焼畑や森林破壊が行われている。大阪はそれと逆のことを50年でやっている。　　したがって、保全だけでなく再生を事実としてやって、これからはセカンドステージに入るわけだから、保全だけでなく、再生という言葉をここにも入れていただきたい。

そうすると、一番大事な万博公園の意味というものがここでしっかり出てくる。その下のカッコ書きの「生物多様化」は「生物多様性」にしていただきたい。それから「自然循環型の公園運営」という表現は再考できないか。「緑の中で人々が憩い、活動し、感動する公園」については、「人々の交流と創造」と重複する感じがする。その下のカッコ書きの「人と　　　文化がふれあう緑」については、「人と自然がふれあう場」などにすればどうか。

**更家会長**

これらの部分は付託する。事務局と石川委員で詰めていただきたいが、よろしいでしょうか。

**事務局**

　そのようにさせていただく。

**小泉専門委員**

「文化を体験・創造し発信する公園」の今後の取組例として「民族学博物館との連携と　　イベント強化」が挙げられているが、イベントというとかなり限定的。時々ちょっと　　　　お手伝いしていただくという感じがするので「民族学博物館との連携強化」の方がよいの　ではないか。

**更家会長**

先ほどあった「新たな生活への創造」よりも「人々の交流と創造」のままの方がよいのではないか、というご意見については、いかがでしょうか。

**事務局**

ライフスタイルの内容になっているので、交流というと、その下にぶら下がる取組例とは合致しなくなってくると思う。

**更家会長**

交流を促進する取組みについては、本当は入れておいていただきたい。公園には、ライフスタイルだけではなくて、人々が交流する場所がある。

**篠﨑委員**

「緑の中で人々が憩い、活動し、感動する公園」ではなく、「交流」する公園、交流を　　　　メインにしなければならない。活動するか、交流するかによって、ここの書き分けが違う　　のではないか。

**小泉専門委員**

交流して感動してもよい気がするが。

**篠﨑委員**

それだと、交流はここに向いていない。

**小泉専門委員**

資料では、目標像をサブテーマにぶら下げているが、分けなくてもよいのではないか。

**事務局**

では、サブテーマは「自然との調和」「世界への文化と美の発信」「人々の交流と創造」の３つとし、目標像のすべてにくくってしまうような整理をさせていただきたい。

**石川委員**

今のアイデアはとてもよい。次のようにすればいかがか。基本理念を「人類の進歩と調和」とする。サブテーマでは弱いのでこれを「目標像」にして、１番目が「人と自然の調和」、２番目が「世界への文化と美の発信」、３番目が「人々の交流と創造」。その下に「基本方針」を持ってくる。さらにその下を「具体的な取組例」とする。

**小泉専門委員**

それで大変結構だが、そうすると「美」という言葉が「基本方針」となる７つ項目に出てこない状態となるので、「緑の中で人々が憩い、活動し、感動する公園」を「緑の中で人々が憩い活動し美に感動する公園」とし「文化を体験・創造し発信する公園」を「文化と美を体験・創造し発信する公園」とすることはいかがでしょうか。

**事務局**

了解しました。

**小泉専門委員**

おひとりで来られると疲れる公園だという声をよく聞く。万博公園には休むところが　　少ない。足の不自由な方のためにも、ゆっくり休む場所が必要であると思う。

**事務局**

「全ての人が安心して快適に利用できる公園」の「具体的な取組み例」として整理させていただきたい。

**石川委員**

３つの目標像、７つの基本方針、そしてその下の具体的な取組み例がはっきりとわかる　ように構成して、枠を作っていただきたい。

**更家会長**

今の修正を含めた上で、審議について可決していただきたいが、いかがでしょうか。賛成の方、挙手願いたい。

（委員全員挙手）

　全員賛成です。なお、中谷委員からは、退席後の議事について会長の私が一任を受けて　　いるので、中谷委員も含めて全員賛成ということでご了解いただきたい。

**事務局**

ありがとうございます。では、本日いただいたご意見を反映させた修正版を、部会長や　　会長に再度ご覧いただき、中間報告とさせていただきたいがよろしいでしょうか。

**更家会長**

はい、結構です。

**事務局**

それでは以上をもって、本日の審議会を終了させていただきます。本日はご審議、誠に　　ありがとうございました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以　　上